

がん感染症疾病対策課感染症対策係
 担当 中山 長藤
 直通：092-643-3597
 内線：3066

福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和6年第31週（令和6年7月29日～令和6年8月4日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

- ・第31週は、梅毒の報告が14件ありました。今年の梅毒の報告数は、過去最高であった昨年（942件・速報値）と同様に推移しており、今後の動向に注意が必要です。
- ・梅毒は、主に性的な接触により感染します。感染のリスクを減らすため、避妊具（コンドーム）を正しく使用しましょう。また、早期の薬物治療で完治が可能ですが、検査や治療が遅れると、脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあります。県内の保健所では、梅毒等の性感染症の検査を無料・匿名で受けることができます。検査の詳細は、最寄りの保健所までお問合せください。
- ・福岡県感染症情報ホームページ(https://www.fihs.pref.fukuoka.jp/~idsc_fukuoka/)では、感染症発生情報、病原体検出情報などをご覧になれます。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	14	545	257	8,736
腸管出血性大腸菌感染症	5	93	130	1,506
レジオネラ症	2	35	59	1,204
カルバペナム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	70	24	1,123
急性脳炎	1	16	7	316
後天性免疫不全症候群	1	35	15	577
侵襲性肺炎球菌感染症	1	70	32	1,588
水痘（入院例）	2	16	4	266
梅毒	14	480	187	8,023
百日咳	1	51	58	828

■ 定点把握疾患報告数

：警報レベル

：注意報レベル

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	3,257	16.45	0.84	72,003	14.58
インフルエンザ	92	0.46	1.48	1,925	0.39
RSウイルス感染症	433	3.61	0.87	5,502	1.75
咽頭結膜熱	42	0.35	0.82	1,506	0.48
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 （警報レベル）	559	4.66	0.81	7,104	2.26
感染性胃腸炎	441	3.68	1.01	8,952	2.85
水痘	35	0.29	2.50	563	0.18
手足口病（警報レベル）	1,059	8.83	0.82	37,428	11.93
伝染性紅斑	3	0.03	1.00	334	0.11
突発性発しん	44	0.37	0.90	811	0.26
ヘルパンギーナ	230	1.92	0.83	6,610	2.11
流行性耳下腺炎	4	0.03	0.67	156	0.05
急性出血性結膜炎	1	0.04	-	19	0.03
流行性角結膜炎	4	0.15	0.57	351	0.5
細菌性髄膜炎	0	0.00	-	10	0.02
無菌性髄膜炎	1	0.07	-	14	0.03
マイコプラズマ肺炎	12	0.80	1.00	374	0.78
クラミジア肺炎	0	0.00	-	2	0
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0	0.00	-	1	0

※新型コロナウイルス感染症について、現在、警報・注意報の基準値は設定されていません。

■ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は警報レベルが続いています。

【感染経路】

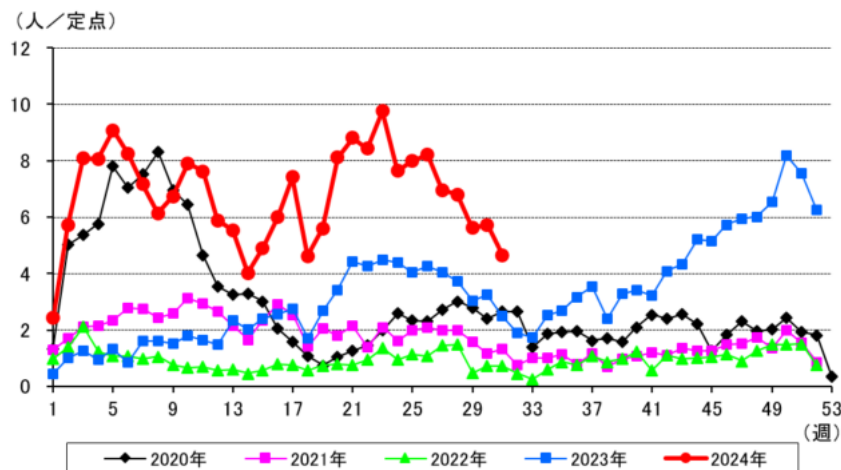
患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる「飛まつ感染」、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」、食品を介して細菌が口に入って感染する「経口感染」があります。

【症状】

38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌等があります。熱は3日から5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱（しょうこうねつ）」に移行することがあります。また、発症原因、病態等は不明ですが、劇症型溶血性レンサ球菌感染症を起こすこともあります。

【感染対策】

予防には、手洗いや咳エチケットが有効です。



■ 手足口病は警報レベルが続いています。

【感染経路】

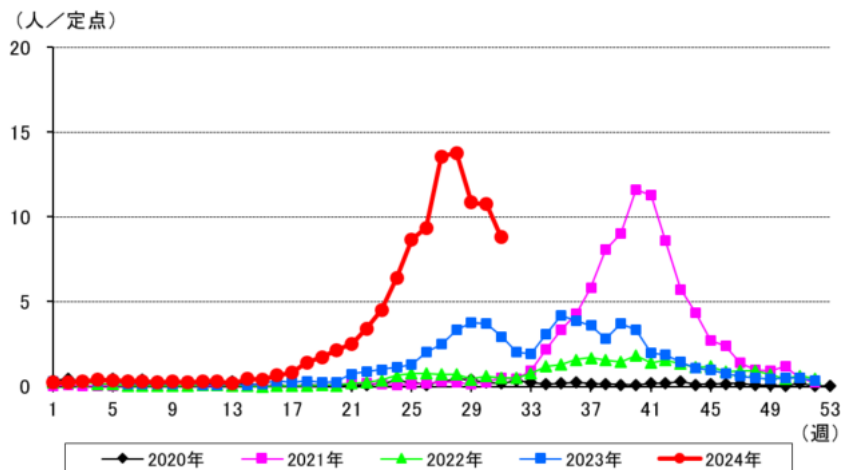
患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」、水疱の内容物や便に排出されたウイルスが手などを介し、口や眼などの粘膜に入って感染する「経口感染・接触感染」があります。

【症状】

3～5日の潜伏期間の後、口の粘膜・手のひら・足の甲または裏などに水疱性の発疹が現れます。発熱は高熱になることはありません。一般的に軽症で、発疹は3～7日で消失します。重症化はまれですが、合併症として急性脳炎や心筋炎があげられます。

【感染対策】

予防には、手洗い、咳エチケットが有効です。発疹が消えた後も、3～4週間は便にウイルスが排泄されるため、手洗いを徹底し、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオルの共用を避けましょう。



■ **新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の定点あたり報告数が高い状況が続いています。**

【感染経路】

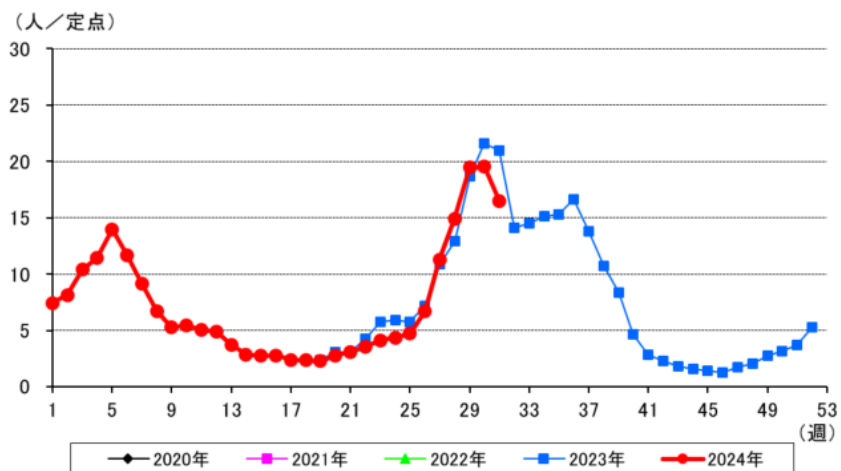
患者の咳やくしゃみ、会話等のときに排出される、ウイルスを含む飛まつ又はエアロゾルと呼ばれる更に小さな水分を含んだ状態の粒子を吸い込むことによる「飛まつ感染」、患者の目や鼻、口に直接的に接触することにより感染する「接触感染」があります。

【症状】

発熱、呼吸器症状（咳、咽頭痛）、頭痛、倦怠感（だるさ）などがあります。また、下痢、嘔吐、嗅覚・味覚障害も起こることがあります。ほとんどの方は時間経過とともに症状が改善します。いまだ不明な点が多いですが、一部、咳や倦怠感などの症状が長引くこともあります（いわゆる後遺症）。

【感染対策】

予防には、手洗いや手指消毒、換気、適切なマスクの着用を含めた咳エチケット等が有効です。



各種感染症の拡大防止のため、基本的な感染対策を心がけ、体調を整えるようにしましょう。